

新党「日本を元気にする会」誕生!

2014年11月に所属していた「みんなの党」が解党して以来、無所属議員として活動してきましたが、この度2015年1月にタリーズコーヒージャパン創業者・松田公太参議院議員を代表として結成された「**日本を元気にする会**」の一員として活動することになりました。直接のご報告ができなかった皆さま、大変申し訳ございません。

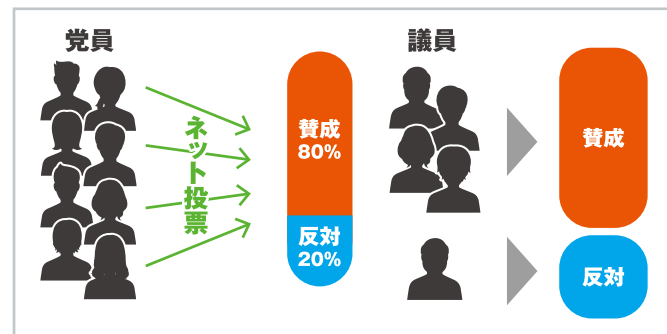


素晴らしい政策と理念をもった「みんなの党」で手痛い失敗を経験した私は、**既存の政党・政治家・仕組みでは、この国の政治を変える**

ことはできないという結論に至りました。まったく新しい挑戦が、この「日本を元気にする会(元気会)」です。

最大の特徴は「割合投票」を行う「直接民主型政治」

元気会は「**直接民主型政治**」を行う、日本で初めての政党です。重要な法案については、インターネットなどで有権者(=元気会の会員)に意見を募り、**その賛否の割合に分かれて国会議員が投票を行います**。元気会には国会議員が現在5名いますが、消費税の増税法案に国民の賛否が8:2なら、4名と1名に分かれて実際に国会で議決に投票します(図参照)。



(図)直接民主型政治のイメージ

選挙が終われば、政治家に「白紙委任」はもうやめよう

これまでのわが国の制度では、選挙の時に存在しなかった争点に関しては、国民は意見を届けることができませんでした。しかし、争点が複雑に絡み合い、政治家たちの独善に国民の政治不信が広がる今、現状に風穴を開けるためには**選挙期間以外にも政治に直接声を届ける仕組みが必要**です。それこそが、この元気会の直接民主型政治、「割合投票」のシステムなのです。

新しい挑戦にこそ、最大の可能性がある

日本を元気にする会

自分たちの意見が、確実に国会に届く。政治に無関心でいられても、無関係ではられない。こうした実感こそが、一人ひとりの意識改革をもたらすのではないのでしょうか。このレポートだけでは政党の魅力のすべてを伝えることができませんが、私自身や党公式HPで詳細を解説しております。「そんなの非常識だ」「ポピュリズムだ」多くの批判があることは承知していますが、私は**問題先送り政治に立ち向かうため、このまったく新しい挑戦をしたい**と思います。引き続き、ご指導ご鞭撻をいただければ幸いです。

おときた駿／1983年9月21日北区王子本町生まれいなり幼稚園、北区立王子第二小学校卒の生粋の北區民。海城中学・高校、早稲田大学政経学部政治学科卒業後、LVMH モエヘネシー・ルイヴィトングループを経て、**東京都議会議員**。現在、**日本を元気にする会唯一の地方議員**。ネットを中心に積極的な情報発信を行う、通称「**ブロガー議員**」。

公式サイト <http://otokitashun.com>

日本を元気にする会 オフィシャルサイト
<https://nippongenkikai.jp>

東京都議会議員

おときた駿
しゅん
レポート



日本を元気にする会
北区議会選挙
(4/26 投票)
公認内定者決定!
(予定候補者)

筆談ホステス 区政へ!



斉藤りえ
(31歳)

1984年2月3日青森県生まれ。現在は北区西ヶ原在住。

1歳の時に病気により聴力を完全に失い、**聴覚障がい者**となる。ハンディキャップを持ちながらも、「人と関わることが好き」という信念から様々な接客業に挑戦。銀座の高級クラブ勤務時に、筆談を生かした接客で「**筆談ホステス**」として話題になる。半生を描いた書籍『筆談ホステス』はドラマ化もされ、「障がい者と社会」について考えるきっかけになったと高い評価を得る。現在は、セミナー講師や執筆活動を行い、著書多数。私生活では4歳の娘を持つ母親でもある。

筆談ホステス 区政へ

人の心が聴こえる街に。
斉藤 りえ



「筆談ホステス」が区政に挑戦する理由

斉藤りえ氏は、数年前に話題になったドラマ『筆談ホステス』のモデルとなった人物なので、名前をご存知の方も多かもしれません。聴覚障がい者でありながら、筆談で接客を行い、銀座 No.1 ホステスにまで上り詰めた彼女は、接客中、小さなノートに数々の言葉をつづってきました。なかでも、「**難題の無い人生は、無難な人生。難題の有る人生は、有難い人生**」(『筆談ホステス 67 の愛言葉』より)という言葉は、彼女の半生も相まって多くの人達を勇気づけました。この言葉には彼女の人生観が詰まっています。「**障がい者として生まれたことには、何かしらの意味がある**」そう考えた彼女は、ホステス引退後、ひとり娘を育てながら、障がい者が生きやすいバリアフリー社会の実現を目指し、日本中で啓蒙活動を行ってきました。



障がい者に優しい社会 ＝健全者にも優しい社会を作るため

2020 年東京パラリンピック・オリンピックの開催決定を受け、彼女は思ったそうです。「世界中から多くの人が来る。そのなかには障がい者もたくさんいる。彼らの気持ちがわかる自分だからこそできることがある」と。障がい者に優しい社会は、もちろん健全者にも優しい社会です。その実現に向け、**啓蒙だけでなく具体的な効果を持つ“何か”を探していた彼女は、“政治”の世界にそれを見出しました。**

しかし、これまで聴覚障がい者の政治家がいたという例はほぼありません。日本の人口における**障がい者の比率は約5%にもかかわらず、国民の代表である政治家にはほとんどいたことがない**のです。「耳が聞こえなくては、議会活動ができないのでは？」そう思う方もいらっしゃるかもしれません。しかし、これだけ IT が普及した現代において、「聞こえないこと」はさほど障壁にはならないのです。例えば、議会に提出する質問状や議案はパソコンで作ってメールで送れば事足ります。問題提起もパワーポイントを使って視覚化すれば可能です。有権者への情報発信にはブログや Twitter があります。これだけ対応策がある以上、あとは受け入れ側の問題です。「**障がい者に優しい社会**」**それを目指すのであれば、まずは政治から変わっていく必要がある**のではないのでしょうか。



障がい者、女性、母親の代弁者として

斉藤りえ氏は、「元ホステス」です。職業差別はよくありませんが、気になる方もいることでしょう。しかし、同時に彼女は「聴覚障がい者」であり「女性」であり「母親」でもあります。聴覚障がい者の政治家は現在 0 人、全国の地方議員のうち女性比率はわずか 10%、さらに子どもがいる方はもっと少ないでしょう。彼女は、「**バリアフリー社会」「女性の社会進出」「少子化・育児」といった、この国、この街がかかえる問題のまさに当事者**なのです。彼女以上に、社会的な立場が弱い人たちの声に、当事者意識を持って向き合える人材がいるでしょうか。しかも年齢は 31 歳。自ら提案した政策の行く末がどうなるかを、何十年もかけて見守れます。つまり、**この街の未来に責任が持てる年齢**なのです。

斉藤りえ氏の政治信念、主要政策については、斉藤りえ公式ホームページなどで随時公開していきます。北区に、議会に新しい風を吹かせる若き政治家の挑戦に、ぜひともご期待ください！

斉藤りえの最新情報はこちらで発信中！

オフィシャルサイト (鋭意制作中)
<http://saitorie.com>

オフィシャルブログ「ほっこり日記」
<http://ameblo.jp/saitorie>